

令和2年度公益財団法人偕行社事業計画書

1 方針

偕行社は、戦没者及び自衛隊殉職者等の慰霊顕彰並びに陸上自衛隊に対する必要な協力等を柱に各種事業を推進して防衛基盤の強化拡充に寄与し、もってわが国の平和と福祉に関する国政の健全な運営の確保に資する。

この際、会勢の拡大と効率的な事業の実施により、収支の一層の改善に努め、会務運営基盤の縮小を最小限に止めつつ、新たな態勢への円滑・着実な移行に留意する。

2 主要考慮事項

(1) 戦没者及び自衛隊殉職者等の慰霊顕彰

靖国神社に祀られる英霊の慰霊顕彰を重視して慰霊顕彰事業を行いつつ、わが国における戦没者等の慰霊顕彰の現状に鑑み、偕行社としての慰霊顕彰及び追悼の在り方について検討して、年度内を目途に結論を得る。

(2) 陸上自衛隊に対する必要な協力

ア 陸上自衛隊の諸活動に対して、必要な協力を着実に実施し、その活動を支援する。

その際、陸上自衛隊の偕行社に対する理解の促進及び陸上自衛隊との一体感の醸成に留意する。

イ 陸上自衛隊が必要とする協力内容の把握に努め、部外協力団体・自衛隊の研究員等と連携して、安全保障・近現代史・教育問題等の研究内容を深め、その成果を防衛諸団体との協同による政策提言に反映する。

その際、偕行社と陸上自衛隊現職幹部自衛官、賛助会員、政府機関との緊密な連携に留意しつつ、研究の内容や成果を積極的に陸上自衛隊に対して提供するとともに、広く国民への啓蒙活動に活用する。

(3) 陸上自衛隊現職幹部自衛官等の偕行社に対する理解の促進

陸上自衛隊に対する必要な協力の充実及び適切な広報施策の推進により、偕行社の目的及び事業内容等について、現職幹部自衛官や法人賛助会員等に対して周知する。

このため、広報並びに研究成果及び政策提言等の発信の在り方について検討するとともに、当面、「修親」及び「朝雲新聞」等への投稿並びに幹部候補生に対する紹介を重視して幹部候補生学校における広報を充実させる。

(4) 会勢の拡大

ア 陸上自衛隊元幹部自衛官等の入会促進

引き続き、各地偕行会の協力を得て部内出身等元幹部自衛官会員数の増加を図るとともに、三木会・尚友会等の元幹部自衛官並びに民間企業及び民間有志等の賛助会員の入会促進に努める。また、入会促進特別委員会の体制を見直すとともに、効率的効果的活動・業務の在り方について検討する。

イ 会員との連絡態勢の強化

退会防止のため、事務局、入会促進特別委員（入会促進協力特別委員を含む。）及び会員との連絡態勢を強化する。

- (5) 効率的な事業の実施
新たな態勢を念頭に各事業を抜本的に見直して、偕行社の目的を効率的に達成するための事業の実施に努める。
- (6) 収支の改善
年間を通じて、効率的な事業の実施及び事業ごとの収支の均衡に努め、令和2年度の収支を改善する。
- (7) 各地偕行会との協力
ア 各地偕行会と協力して、必要な事業を推進する。
この際、「偕行社と各地偕行会との協力要領（案）」に基づいて試行を行い、態勢移行後の協力要領に関する在り方検討の資を得る。
イ 各地偕行会会員と各地所在の偕行社会員との連携（活性化）要領について、検討する。
- (8) 将来態勢検討成果の反映
将来態勢検討成果の早期具体化を図り、逐次年度事業計画に反映させる。

3 主要実施事項

- (1) 公益目的事業
ア 慰霊・援護事業（公1）
（ア） 4・10月を除く第3水曜日に、靖國神社及び千鳥ヶ淵戦没者墓苑に対する月例参拝を実施する。
なお、1月の月例参拝は、賀詞交換会と連携して実施する。
（イ） 市ヶ谷台慰霊祭を9月中旬に実施する。
この際、努めて陸上自衛隊元幹部自衛官会員の参加を促す。
（ウ） 靖國神社及び護國神社の例大祭並びに政府や協力団体の行う慰霊顕彰事業に積極的に参加・協賛する。
（エ） 各地偕行会と連携し、英霊の慰霊顕彰及び殉職自衛隊員追悼の在り方について検討する。
また、自衛隊遺族の援護のため防衛弘済会の行う援護基金活動に協力する。
（オ） 陸軍墓地の整備を偕行社の事業とすることについて、検討する。
（カ） 戦没者遺骨収集法に基づく事業に関わる関係団体の活動に協力する。
- イ 安全保障に関する研究及び提言（公2-1）
（ア） 「米中覇権争いの第一線で、日本が生き抜く新しい国家安全保障戦略を考える」をテーマとして研究し、東アジア情勢の変化と今後の米中露の動向を分析し、米国の安全保障・外交政策や日本の安全保障戦略上の課題を明らかにする。その成果を研究発表会（講座）を通じて、啓蒙活動を推進する。
この際、安全保障委員会の意見として必要がある場合には、偕行社提言として発表することを考慮する。
（イ） 陸上自衛隊現職幹部自衛官・部外有識者・協力団体研究員等との研究交流を一層深め、研究内容の深化及び充実を図る。
（ウ） 優秀な若手研究員を更に発掘し、幅広い研究体制を整備する。研究員の優れた研究発表については、つとめて『偕行』への投稿を勧め、更に一般誌等への推薦・紹介を行う。

- (エ) 年度計画による隔月の研究発表会（講座）においては、聴講者との意見交換を重視するが、更に発表会終了後、研究員による自由討議の時間を設け切磋琢磨し研究内容を深める。
- (オ) 研究員の次年度の研究課題と方向性について集中的に審議することを目的とし、8月上旬に近現代史研究委員会と共同して、研究員夏季セミナーを実施する。
- (カ) 第12回シンポジウム（令和3年3月）では、米中覇権争いの第一線で、日本が生き抜く国家安全保障戦略の中での問題点を明らかにして解決策特に、陸上自衛隊の課題と対策を発信する。公表テーマについては、8月の研究員夏季セミナーにおいて検討し決定する。
- (キ) 国内外の情勢変化に応じて、必要な場合には臨時研究発表会（講座）を実施する。
- (ク) 政策提言及び入会促進等に資するため、防衛政策等、特に現職陸上自衛官及び元陸上自衛官の処遇に関する研究を行う。
- (ケ) 事業の実施に当たり、事業規模・要領の見直し及び聴衆の増加により収支均衡に努める。
- (コ) 令和2年度安全保障講座予定表・・・・・・・・・・・・・・・・別紙第1

ウ 近現代史に関する調査・研究及び発表（公2-2）

- (ア) 3カ年計画の2年度目として、引き続き、「大東亜戦争史」をテーマとして研究する。本年度は、戦争に至るターニングポイントとなる重大な事象について、特に「人物」の視点から調査・研究し、大東亜戦争史を新たな側面から解明する。
併せて戦後から現在に至る他国との「歴史認識問題」について、努めて客観的な視点から調査・研究を継続し、その問題の本質を明らかにする。
- (イ) 年度計画による隔月の研究発表会（講座）においては、各研究員の発表に加え、部外研究者を招聘し講座の活性化を図る。
この際、講座開催日を土曜日とし陸上自衛隊現職自衛官の出席が容易になるよう配慮する。また、発表終了後の研究員による自由討議を行い更に研究内容を深める。
- (ウ) 「歴史認識問題」については、研究員相互の勉強会を行い、後日軽易な資料集を作成し、これを主として陸上自衛隊現職自衛官（各級指揮官、駐在武官等）に提供し、その啓蒙の一助とする。
- (エ) 各研究員の研究成果の活用については、その一部を『偕行』に掲載するとともに、過去に『偕行』に掲載された論文等の書籍化を図り出版する。
- (オ) 研究員の次年度の研究課題と方向性について集中的に審議することを目的とし、8月上旬に安全保障委員会と共同して、研究員夏季セミナーを実施する。
- (カ) 第12回シンポジウム（令和3年2月）では、「大東亜戦争に至るターニングポイントー人物を焦点に（仮題）」を公表テーマとする。招聘部外者等の細部については8月の研究員夏季セミナーにおいて検討し決定する。
- (キ) 優秀な若手研究員を更に発掘し、幅広い研究体制を整備する。
- (ク) 引き続き陸軍・自衛隊草創期の資料を収集するとともに、偕行社に寄せられるマスコミ・軍事研究者・部外者等からの質問・調査依頼について、可能な限り協力する。
- (ケ) 令和2年度近現代史研究講座予定表・・・・・・・・・・・・・・・・別紙第2

エ 教育問題の研究（公2-3）

- (ア) 道徳の検証の一環として、軍人が体現した道徳の事例について、引き続き研究する。
- (イ) 教育問題について、識者の講演等を適時行い、委員等の識見等の向上を図る。
- (ウ) 研究成果を適時、『偕行』誌上を通じてその普及を図る。

(エ) 部外組織との連携に努める。

オ 陸上自衛隊に対する協力 (公3)

(ア) 陸上自衛隊の行う国際平和協力活動・災害派遣等の活動に対し、自衛隊関係機関及び関係友好団体と連携して激励する。

この際、各地偕行会との連携に留意する。

(イ) 国の安全保障に関する陸上自衛隊の幹部教育等に対し、他の防衛協力団体と連携をとりつつ、講師派遣等で支援するとともに、必要な情報を提供する。

(ウ) 陸上自衛隊幹部候補生学校卒業式への参加等、各種行事等に協力する。

(エ) 部隊等の記念式典に参加又は祝電を打電する。

カ 定期刊行誌『偕行』の発行 (公4-1)

(ア) 偕行社の公益広報誌の性格を重視し、会員の研究成果、論説、シンポジウムや研究会等の報告、部外研究者の記事や協力団体誌の論文を掲載する。また、陸上自衛隊支援の観点から陸上自衛隊の現状・活動等紹介記事を掲載する等、幅広い内容で類似誌とは異なる広報媒体であるように努める。

この際、各種の会員に配慮した内容構成に留意するとともに、陸上自衛隊現職幹部自衛官の読者に配慮する。また、「偕行現代考」及び「お茶の時間」などを企画継続して、現代風潮に対する会員の意見を掲載することにより、誌面で扱う題材を多様化するとともに「祝」欄も復活させ、会員の投稿意欲の向上を図る。

(イ) 「花だより」・「つどい」編纂と相まって、全国に居住する会員の親睦と結束、会員の入会促進に資する広報誌として、内容の魅力化に努める。このため、「各地偕行会だより」の充実に努める。

(ウ) 誌面に余裕のある時は、古いバックナンバーの記事で現在の読者に参考となるような軍事史再録も行う。

(エ) 部外有識者、公立図書館、陸上自衛隊の各部隊・機関の長及び地方協力本部長等に寄贈するほか、会員以外にも積極的に販売する。

キ 広報活動 (公4-2)

(ア) 『偕行』及びホームページを主要手段として、防衛基盤の強化・拡充に資する対外広報を重視して広報する。

特に、安全保障・近現代史の研究成果及びシンポジウム成果の発表に留意する。

(イ) 『偕行』の誌面を補完するホームページの活用に留意する。

(ウ) ホームページの内容を適時に更新するとともに、魅力化に努める。

(エ) ホームページを補完するためのフェースブック及びインスタグラムを最大限に活用する。

(オ) メールマガジンの活用による積極的な情報発信のため、登録者数の増加を推進する。

(カ) 陸上自衛隊幹部自衛官に対し、偕行社を広報するため、修親会の機関誌『修親』に広告を掲載する。

(キ) 将来態勢検討内容反映のための広報の在り方について検討に着手する。

(ク) 法人会員等に広報用カレンダーを配布する。

(2) 収益事業

ア 会館の運営 (収1)

- (ア) 『偕行』やホームページ等を活用するとともに、呼びかけ、新規メニューの導入等により、陸上自衛隊現職幹部自衛官及び元幹部自衛官の集客に努める。
- (イ) 会館利用率の拡大及び使用料金の値上げ等により会館の収益率の向上に努める。
- (ウ) 将来態勢検討の結果を踏まえ、必要に応じ、会館運営の在り方について検討する。

イ 出版物の販売（収2）

- (ア) 『偕行』及び『雄叫』の部外販売箇所の拡大に努めるとともに、引き続き販売を促進する。
- (イ) 全国陸軍墓地の調査結果である冊子『陸軍墓地』の頒布を引き続き推進する。
- (ウ) 偕行社と日本郷友連盟との共同著書「憲法改正提言と各国の憲法『国防なき憲法』への警告」の部外販売箇所の拡大と頒布を、引き続き促進する。

(3) その他の事業

「花だより」・「つどい」の発行（他1）

主として会員相互の親睦と結束、連絡及び偕行会事業の各会への反映に資する会員向け広報誌として「花だより」・「つどい」を発行して全会員に配布する。

(4) 厚生活動

ア 談話室と会議室の有効利用及び利用者の便宜を図るため、厚生委員会は積極的に改善意見（如何にして収益の増収、集客を増やすか）を提出して事務局に協力する。

イ 第11回文化祭（芸能発表を含む）を、11月上旬に実施する。この際、ホームページを活用するなど部内外への積極的な広報に努める。

ウ 偕行社の文化的な伝統を継承しつつ、会員の福利厚生活動を充実するため、偕行社文化・スポーツ活動を拡充・促進する。

この際、陸上自衛隊及び部外の活動との連携・協同を進める。

エ 各地偕行会及び陸上自衛隊各駐屯地（陸上幕僚監部・中央業務支援隊）と連携し、偕行社の美術展示を促進する。

(5) 陸上自衛隊元幹部自衛官等の入会促進

ア 元幹部自衛官の当面の目標体制を5,000名以上とする。

イ 入会促進特別委員会について、体制を見直すとともにB・U出身若年期委員及び部内出身委員を充実する。また、偕行社の入会促進特別委員と各地偕行会入会促進協力特別委員との連携を強化し、もって元幹部自衛官等の入会促進を図るとともに、全国の入会促進基盤を強化する。

ウ 引き続き、定年前幹部自衛官の偕行社に対する理解を深め、事後の入会促進に資するため、小平学校業務管理集合教育学生の偕行社訪問研修及び各方面總監部が実施する業務管理集合教育において「偕行社についての説明会」を実施する。

エ 幹部候補生学校卒業後41周年記念行事の機会を活用した入会促進業務を推進する。

オ 入会案内資料を再編集する。この際、費用を最小限に止める。

(6) 各地偕行会との協力

ア 各種事業の推進

(ア) 引き続き、「偕行社と各地偕行会との協力要領（案）」に基づき、次の事業を推進する。

- ・ 護国神社及び陸軍墓地等の慰霊祭並びに殉職陸上自衛隊員追悼式への参加を支援する。
- ・ 陸上自衛隊が行う教育訓練等に対する協力を支援する。

- ・ 地元から派遣される陸上自衛隊の国際平和協力活動及び災害派遣部隊等に対する激励・協力活動を支援する。
- ・ 地元の陸上自衛隊が行う各種行事等への参加を支援する。
- ・ 要請に応じて、適任の講師を派遣して、陸上自衛隊の現職幹部自衛官との一体感の醸成並びに安全保障及び近現代史に関する研究成果の発信について、総会等の実施を支援する。

(イ) 慰霊援護を含む偕行社の将来態勢検討の結果を踏まえ、各地偕行会に対する支援の在り方について検討する。

イ 各地偕行会会員と各地所在の偕行社会員との連携

将来検討委員会における偕行社の将来態勢検討の結果に基づき、各地偕行会会員と各地所在の偕行社会員との連携（活性化）要領について、検討する。

(7) 将来態勢検討

将来検討委員会における検討結果について、6月の定時評議員会において承認を得るとともに、新たな態勢について具体化する。

4 主要会議等

- (1) 総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・令和2年10月 9日(金)
- (2) 全国会長会同・・・・・・・・・・・・・・・・令和2年10月 8日(木)
- (3) 評議員会(年2回実施)
- ア 定時・・・・・・・・・・・・・・・・令和2年 6月20日(土)
- イ 臨時・・・・・・・・・・・・・・・・令和3年 3月13日(土)
- 上記の他必要の都度実施
- (4) 理事会(通常3ヵ月ごとに実施)
- ア 通常・・・・・・・・・・・・・・・・令和2年 6月 4日(木)
- 令和2年 9月 3日(木)
- 令和2年12月10日(木)
- 令和3年 2月25日(木)
- イ 臨時・・・・・・・・・・・・・・・・上記の他必要の都度実施
- (5) 業務連絡会議(年4回実施)
- 令和2年 5月21日(木)
- 令和2年 7月 9日(木)
- 令和2年11月12日(木)
- 令和3年 1月14日(木)
- (6) 各委員会・・・・・・・・・・・・・・・・毎月又は2～3ヵ月ごとに実施

令和2年度安全保障講座予定表

月日(曜日)	講座	講師	テーマ
4月16日(木)	第70回定期講座	道下徳成氏	朝鮮半島の将来像ー日本への影響ー
6月18日(木)	第71回定期講座	香田洋二氏	日米同盟の再定義
8月20日(木)	第72回定期講座	渡部悦和 研究員	米国の最新情勢
10月15日(木)	第73回定期講座	宮寄泰樹 研究員	中国の最新情勢
12月17日(木)	第74回定期講座	徳田八郎衛 研究員	中国と日本の技術力
2月18日(木)	第75回定期講座	佐々木孝博氏	ロシアのサイバー戦争ー過去、現在、未来ー
3月	シンポジウム	未定	未定

令和2年度近現代史研究講座予定表

月日(曜日)	講座	講師	テーマ
5月30日(土)	特別講座	森山優氏	石川信吾(海軍)
7月25日(土)	第84回定期講座	原剛 研究員	真田穰一郎と服部卓四郎(大本営参謀)
9月26日(土)	第85回定期講座	池田十吾 顧問	コーデル・ハル(米国国務長官)
11月28日(土)	第86回定期講座	高橋久志 顧問	汪兆銘(中国国民党→傀儡政権首班)
1月30日(土)	第87回定期講座	杉之尾宜生 研究員	武藤章(陸軍)
2月	シンポジウム	未定	大東亜戦争に至るターニングポイント
時期未定	特別講座	庄司潤一郎氏	近衛文麿(総理大臣)